2026年8月7日

サントリーホールディングス株式会社
２０２６年１２月期中間決算　説明内容

説明者：サントリーホールディングス株式会社
執行役員　経営管理本部長　西川 平（たいら）

平素から私どもの活動に対して多大なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。
決算のご説明に先立ち、この度の令和８年熊本地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地での救援活動、復興支援にお役立ていただきたいとの思いから、サントリーグループとして、義捐金３千万円を拠出し、救援物資として「サントリー天然水」や「伊右衛門」などを供出しております。熊本には、弊社の工場やサントリー天然水の森などがあり、２０年以上にわたって地域の方々とともに活動してまいりました。我々グループにとって、大変思い入れの深い土地でございます。一日も早い復旧・復興を心より願っております。
それでは、２０２６年中間決算についてご説明させていただきます。

①当社実績について

サントリーグループの売上収益は、
酒税込みの売上収益が、１兆７,３３２億円、前年同期比７.１％増となりました。

営業利益は、１,２６３億円、前年同期比２.６％減
事業の利益をはかる指標となる、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いた、調整後営業利益は、１,２９１億円、前年同期比８.９％減
親会社の所有者に帰属する中間利益は、４８２億円、前年同期比１９.２％減となりました。

売上収益は、飲料・食品事業および国内の酒類事業の好調により、前年を上回りました。営業利益につきましては、主に北米酒類事業の売上減とサプライチェーンコスト悪化の影響を受け、前年を３％程度下回りました。

②事業の動向について

セグメントごとに説明いたします。

〈飲料・食品セグメント〉

酒税込みの売上収益は、９,１４１億円、前年同期比１３.９％増
営業利益は、８６８億円、前年同期比３.４％増となりました。
詳細は、昨日サントリービバレッジ&フード社が発表したとおりです。

〈酒類セグメント〉

酒税込みの売上収益は、6,536億円、前年同期比0.2%増
営業利益は、539億円、前年同期比24.6%減となりました。
国内は、各カテゴリーにおけるマーケティング活動が奏功し、好調に推移しました。

ビール類では、「サントリー生ビール」ブランドが、中味・パッケージのリニューアルやJリーグとのプロモーションなどにより、販売数量で前年同期比12%増となりました。「金麦」ブランドも、旬の食材や料理と合わせて楽しむ提案を強化し、販売数量で前年同期を上回りました。

RTDでは、「−196（イチキューロク）」ブランドが、“果物がおいしいチューハイ”「−196」シリーズなどの好調により、販売数量で前年同期比10%増となりました。
ウイスキーでは、「角瓶」ブランドと「トリス」ブランドが、販売数量で前年同期を上回りました。「角瓶」は世界的な酒類コンペティション「インターナショナル・スピリッツ・チャレンジ 2026」ジャパニーズウイスキー部門で3年連続となるゴールドを受賞しました。

ジンでは、「翠」ブランドで、「翠ジンソーダ缶〈すっきり爽やか〉」「同〈本格濃いめ〉」を発売しました。また5月からサントリー大阪工場「スピリッツ・リキュール工房」を一般公開し、ものづくりの品質・魅力の訴求に取り組みました。
ノンアルコール飲料では、「オールフリー」ブランドが、「からだを想うオールフリー」の伸長に加え、「オールフリー〈エールテイスト〉」の発売により、販売数量で前年同期比4%増となりました。

海外は、アジア・パシフィック地域および今後の重点市場であるインドで前年同期を上回り、免税店チャネルも好調に推移しました。一方、米国では、市場の消費停滞や流通在庫の平準化に伴う一部出荷の下期への後ろ倒しの影響を受けました。
主力ブランドでは、ジャパニーズウイスキー「響」「山崎」「TOKI」や、インド市場向けウイスキー「オークスミス」などが、販売数量で前年同期を上回りました。RTD「−196」も、販売地域の拡大と積極的なマーケティング活動により、前年同期を上回りました。

〈その他セグメント〉

酒税込みの売上収益は、1,655億円、前年同期比　1.6%増
営業利益は、169億円、前年同期比49.3%増となりました。
外食事業の売上が好調に推移しました。

③２０２６年の見通しについて

最後に、２０２６年の年間業績見通しについてですが、今年２月に発表した計画から変更はございません。

先行き不透明、不確実な状況ではありますが、今後もグループ一体となって、新たな価値の創造にむけたチャレンジを続けることで、長期的かつ持続的な成長を目指してまいります。

私からの説明は以上です。今後とも、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。
本日はありがとうございました。

以　上